

櫻井

松平淡路守源忠直

松平健政助忠義家

附

松平宮内源忠法

松平良一忠光家

松平因幡守源忠久

松平幸二源忠鎮家

附

松平織部源忠利

絶家



干城録卷第六

松平

出雲守源乘清源出雲守乘遠源二男あり

家祖人親忠君源九男乘清源一族若次郎正敏家譜○按

此二ノ寛永譜ノハ親忠君ノ二男少クテ源次郎乗元ノ弟乗清ト記シ又家譜ト參松平系譜集參考トハ加賀守乗元ノ二男力乗清ト記シ又探々トシテ家譜トハ乗清ハ通称ト三郎大支源四郎出雲守ト記シ一族若次郎正敏家譜トハ源次郎又加賀古傳ト記シテ以テ之ヲ詳々トシテ三河國賀茂郡瀧原城ト任シ故リ通称ト省ク

ト云々トシテ瀧原ノ松平ト稱シ傳ハ

とくせ乗清志の軍功ありはまはとく三

河國麻生ノ城と賜ひて時胤昭ノ城と乗遠

小興之ぬ 一族岩次郎正敏家譜○按ては家譜にハシテ乗清ノ事蹟と乗遠ノ混

多し故に 乗遠ハ三河小生れしとて三郎大吏

と稱し 按ては平家譜集多たは龜井坊と

東照宮小治りまうりて 家弘治二年三月

二十五日討死し 寛永譜 家譜 一按ては寛永譜ハ六月二十五日平家

譜ハ又按ては家譜小治り討死とて法名と如海とては平家覺束とては平家

とく 寛永譜 按ては家譜ハ大要是より説ひて

家譜ハ乗清の法名と御言天くありとて家譜ハ乗清と乗遠と混

る 乗高が兄と久末正乗とてり實ハ乗

遠ら兄源四郎正親ら二男ありて 成乗

遠ら 一族岩次郎正敏家譜 正乗

りりりりり

東照宮小つうりまうりて 三河國岩津の戦

ひ小軍功ありはまは別小采地と賜りて

龍胆く作り弘治二年正月五日大給の松平

和泉守親乗龍胆とてくんとせくに心乗

これと戦ひて乱軍にうら小死したる 寛永譜  
家譜

接しむるに参松系信松平系諸集参考あり弘治二年三月二十五日  
乗大給の松平和泉守親乗のため討るにあり又寛永譜にハ

年月とのせひ今家譜に合せ考へて本文とたひ 乗高兄の讎と報せん

て大給と攻うら放火せし親乗力及ハ

よして尾張國小遁れり 寛永譜家譜  
参松系信 其後

乗高父を嗣とてり

東照宮小はうまうり永禄五年一向宗の

徒背目さし時敷夜に戦ひわつる中に公呂

の戦ひ小乗高水野惣玄清忠重とて小

峰屋半々丞貞次等と攻撃して比類るるこ

切と顯る 寛永譜家譜  
不見るにされ松平金助水野藤十郎忠重

峰屋と遊ぐに幸ふみお思ふに金助ハやうと乗高は幸ふみお  
らさるる叙爵以前の通称見えさすハ詳し

其後二侯の城と攻落し其賞とて

遠江國小く采地とせ賜ひたる 寛永譜家譜  
参松系信 天

正十八年小田原小幸發つと時

東照宮乘高小仰ありて佐原中山あり

豊后家と郷食應をさせ給ふ寛永此時用ひ

させ給ひつる茶入と六後小乘高賜りたり

家譜其後從五位下に叙し清留守番たり

組子百二十人と預りぬ寛永家譜文禄元年

正月二十五日小死法名と乘高とつゝ其子

監物乘次河小生と家譜とつゝめハ金次郎と稱

たてまこと右馬助とともなり寛永家譜

東照宮小はうまりり慶長二年洛小とせ

給ひし時扈從と伏見の陣番とに家譜し

東照宮の文禄四年より慶長五年まで伏見小とゆ

りあり家譜の陣番とに家譜し同六

年十月先祖よりれ知行三河國六百石

地と賜ひ清小性とつゝ家譜の陣番とに家譜し

その後徒家譜の士と預け給ふ寛永元和九年七

月より

大猷院殿小はらまろり清書院番組頭

小うろりて活小のあせ給ひて供奉

々寛永譜家譜 此年八月叙爵して監物と稱ひ

後七十二歳に於て歿歿せりて家傳に寛永二十年十一月二十八日小歿しと云々

正武其遺跡と継ぐと寛永十六年の事といひ清日記永應二年正武跡目と賜ふといふこと正武の家傳に流うけりといふこと清日記に寛

永十九年十二月正武に部庄任料二百俵と賜ひて事と見ゆれん今没年と有る法名と善良と

稱家譜其子次郎大支正貞實ハ青沼勘六郎

昌次家譜二男より家譜武藏小はらまろり家譜女右

埴八まきとけ正武と稱し後之郎大支と家譜不家譜乘

次嗣家譜正子より家譜正寛永十六年正貞

と養家譜ひこ子と家譜寛永譜家譜○按るる小家傳に此年父の遺跡と継ぐといふこと正武も志すとい

ことく此年遺跡と継ぐといふこと其年

大猷院殿と稱し寛永譜同十七年五月清書院

の番士と寛永譜同十九年十二月廩

米二百俵と賜ふ仰日記今の小普請松平監物乘道より